

栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	大阪府
推進地域名 (再委託先)	箕面市

1 事業推進の体制

実践中心校	彩都の丘学園(箕面市立彩都の丘小・中学校)
協力校	箕面市立豊川北小学校
関係機関	

2 各都道府県教育委員会の取組

(1) 食育の方針（取組内容）

【テーマ】

- ①小・中学校の9年間を通じた系統的な食に関する指導の充実
- ②家庭・地域との連携のもと、望ましい生活習慣の定着に向けた食に関する指導の充実

大阪府では、平成23年度から平成27年度まで市町村に財政的支援を行い、中学校給食の導入を促進している。この中学校給食実施を契機に、小・中学校の9年間を見通した系統的な食に関する指導の充実を図るとともに、望ましい生活習慣の定着に向けた食に関する指導の在り方を検討する。

推進地域を箕面市に指定し、栄養教諭を中心に、学校における食育の一層の推進を図り、児童生徒の望ましい食習慣の形成を目指した食に関する指導の在り方を検討する。

なお、箕面市は、平成25年9月に全中学校において給食を開始する。

実践中心校である箕面市立彩都の丘学園では、小中一貫校という点を活かし、小学校・中学校を通じた食に関する指導を充実させることを重点に置き、9年間を見通した「食に関する指導の全体計画」の作成をはじめとする連携した食に関する指導の充実を図るものとする。

(2) 実践推進地域への指導・支援内容等

○大阪府食育推進検討委員会の開催

推進地域の取組み状況及びその成果を踏まえ、栄養教諭を中核とした食育推進の在り方や評価指標について検討するとともに、今後の方向性を示す。

【第1回大阪府食育推進検討委員会】

平成25年9月17日（火）14:00～ 大阪府赤十字会館304会議室

推進地域（箕面市）の事業計画及び進捗状況の報告を受け、教職員の共通理解、地域との連携の在り方、学校保健委員会の活用など、今後の取組みについて検討した。

【第2回大阪府食育推進検討委員会】

平成26年2月12日（水）14:00～ 大阪府赤十字会館304会議室

箕面市及び箕面市立彩都の丘学園から本年度の取組みの報告を踏まえ、取組みの効果及び大阪府における食育の推進について協議するとともに、来年度の方向性について検討した。

○実践報告会の開催

○中間報告書の配布

3 具体的な取組等について

テーマ1	推進地域における小・中9年間を通した食に関する指導の充実と評価指標の研究
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体計画、年間指導計画の作成と検証 ・ 生活習慣状況調査の実施と検証 ・ 授業における食育推進状況の検証
効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養教諭を中核とした取組により、給食、委員会活動、食育授業が飛躍的に充実 ・ 子どもや保護者の食に関する意欲関心が向上

(取組状況)

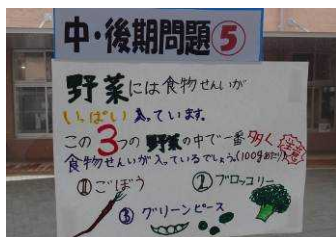
- 食事と生活アンケート(4月・12月実施、2～9年生238名対象)の分析・検証
- 小中一貫校として、1年生から9年生までの全体計画、年間指導計画の作成
- 栄養教諭が中心となり食に関する指導の授業実践(h:時間数 C:クラス)
 - ・ 1年生活「きゅうしょくがはじまるよ」「やさいだいき」等 12h×3C
 - ・ 2年生活「夏野さいを育てよう」「野さいのいいところはっけん」等12h×2C
 - ・ 3年保健「朝ごはんを食べて元気いっぱい」国語「すがたを変える大豆」等5h×2C
 - ・ 4年総合「健康な暮らしを考える」体育「バランスのとれた食事を考えよう」など3h
 - ・ 5年家庭「みつめよう家庭生活」総合「おやつの話」等26h×1C
 - ・ 6年家庭「見直そう食事と生活リズム」「まかせてね今日の食事」等25h×1C
 - ・ 7年家庭「加工食品と食品添加物」国語「コンビニ弁当-16万キロの旅-」等2h×1C
 - ・ 8年国語「食の世界遺産-鰹節-」総合「中学生の食生活」等1h×1C
 - ・ 9年家庭「お弁当の話」等1h×1C
- 食育の6観点(「食事の重要性」「心身の健康」「食品を選択する能力」「感謝する心」「社会性」「食文化」)に基づく指導目標を設定し、各学年の授業を展開
- ランチルームにおける小中合同の給食及び給食指導の実施
ランチルームには120席あり、学年を割り当てて1ヶ月交代で給食を食べている。テーブルの高さを変え、低学年児童と中学年以上の児童生徒がいっしょにランチルームで食事をしている。



前期(1～4年生)・中期(5～7年生)・後期(8,9年生)の給食の様子

○委員会活動における小中合同の取り組みの実施

- ・クイズラリーの実施(6月)
給食委員会が、「食べものクイズラリー」を行った。クイズの答えは給食委員が丸つけをし「解説書」を渡して読んでもらえるように工夫した。



貼り出された問題



給食委員による丸つけ

- ・健康フェスティバルの実施(2月)
給食委員会、保健委員会、体育委員会、図書委員会が合同で実施した。各委員会が健康に関するコーナーを考え、たくさんの子どもたちと遊びながら学ぶことができた。



問題に挑戦



心と体のリラックス釣り

- 食に関する指導における評価についての研究
- 食に関する指導における評価規準の作成(1～6年)
- 報告書の作成

テーマ2	家庭・地域の連携のもと、望ましい生活習慣の定着に向けた食に関する指導の充実
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域給食試食会を開催し、ミニ食育研修会とともに意見を集約・分析 ・土曜日に子ども料理教室や親子料理教室を実施 ・食育情報(たべものつうしん)や地域広報誌(コラボNEWS)の発行
効果	・子どもや保護者の食に関する意欲・関心が向上

(取組状況)

- 給食試食会・ミニ試食会の開催
 - ・試食とともに栄養バランス、食生活、子どもの食事について等講話
 - ・併せてアンケートを実施し、給食のことだけでなく「家庭での食育で心がけていること」「学校での食に関する指導への意見・感想」等を把握。

○[給食に期待されること、給食への要望・感想]

- ・手作り、できたて、旬の食材、添加物の配慮など、これからもこだわり続けてほしい。
- ・食卓で並ばない郷土料理や外国料理なども取り入れてほしい。
- ・好き嫌いがなくなること。友だちと楽しく食事をする。
- ・放射能、放射性物質については育ちざかりの子どもですので気になる場所です。
- ・苦手なメニューは最初に減らさず、できる限り普通の量を食べてほしい。
- ・偽装や汚染などの心配がない安全な産地、信頼できる業者の食材を使ってほしいです。
- ・箕面の野菜が使われているのは地産地消の観点からとてもいいことだと思います。おすましに止々呂美のゆずを散らすのはいかがでしょうか？ など



○[学校での「食」に関する指導への感想・意見・要望]

- ・手作りの食事のありがたみを感じてくれる子になって欲しいと思っています。
- ・豆むきなど子どももどんどんお手伝いができればうれしいです。
- ・食器を置くトレーがあればいいと思います。配膳の時間が短縮できるのでは。
- ・家庭ではなかなか食育も難しく、学校でこれだけのことを学ばせてくれるのはありがたい。
- ・食事は一生のことなので、いろんな食材に興味を持って楽しく食事をしてほしい。
- ・大切に育てられた野菜などを大事に調理してくださり、おいしく作っていただいた給食を残さない心がけを指導していただきたいです。(食べられる分量を盛るなど)
- ・「食」についていろいろな角度からご指導頂けているので、子どもたちも興味を持って聞くことができる。 など

○家庭地域と連携した食育の実践

- ・土曜日の「13キッズ『食』クラブ」を6月～2月までに計6回開催。うち2回は親子クッキング(8月「トマトケチャップを作ってピザを焼こう」12月「おせち料理を作ろう」)に位置づけて実施。毎回30～60名が参加。



○情報発信

- ・毎月、健康教育部(食育担当)として、栄養教諭が「たべものつうしん」を発行。時期に応じた内容で保護者、子どもへの情報を提供。
- ・地域広報誌「コラボNEWS」を作成し、保護者だけでなく地域の未就学の家庭や近隣大阪大学外国語学部寮にも配布。(11月と2月発行)

○報告書の作成

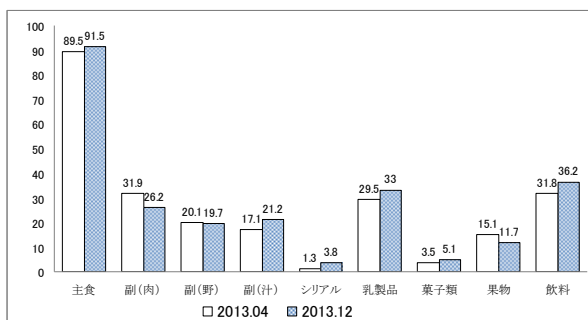
4 事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

○栄養教諭を中核とした食育を大きく推進することができた。

- ・小中一貫校として、9年間の見通しを持って系統的な食育に取り組むことができた。(全体計画、指導計画に基づく実践)
- ・子どもたちが意欲的に食の授業に取り組み、家で料理をしたり、お菓子の成分にも目を向けるようになったりと食への関心が深まった。

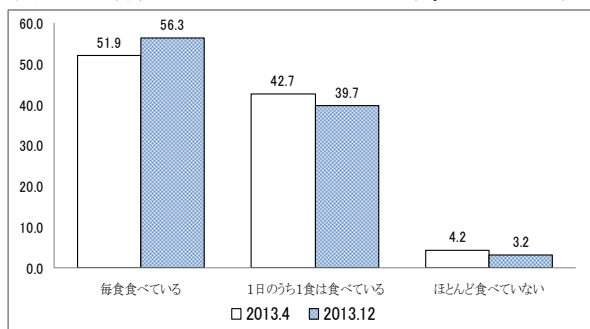
【食に関する指導による効果】「食事と生活についてのアンケート」より

問3 今日朝ごはんは何を食べましたか？



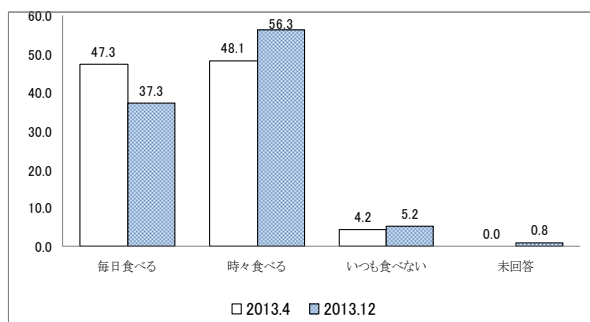
朝食についての授業後、主食、乳製品の摂取量が増加。食事内容のバランス意識する児童生徒が増えた。

問8 野菜は一日にどれくらい食べていますか？



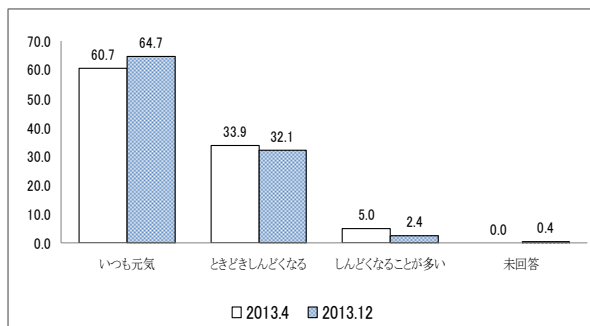
野菜についての授業後、「毎日食べている」児童生徒が増加。野菜の必要性がわかり、実践しようとする意識が高まった。

問7 おやつは毎日食べますか？



おやつについての授業後、「毎日食べる」児童生徒が減少。おやつのとり方について意識が高まった。

問5. あなたの体調はどうですか？



食に関する指導の学習後、「いつも元気」が増加。食生活や生活習慣の改善意欲により、体調がよくなったと自覚する児童生徒が増えたと考えられる。

- ・土曜日の「キッズ『食』クラブ」や親子クッキングの開催により、保護者・地域とのつながりができ、食への関心が高まった。

第1回 ランチョンマットづくり	第2回 牛乳を使ってチーズ作り	第3回 親子クッキングピザづくり	第4回 手作りルウ野菜のカレーづくり	第5回 親子クッキングおせち料理	第6回 料理を作ってバイキングしよう
28人	32人	大人24人 子ども56人	42人	大人24人 子ども38人	46人

※第3回ピザづくりは希望者が多く、2交代制で実施。参加希望人数が増加傾向にあったため第5回おせち料理は、抽選で実施した。
回を追うごとに参加希望者が増加し、保護者・子どもの関心と意識が高まってきたことが伺える。

- ・積極的な地域への情報発信ができた。
(試食会や毎月の「たべものつうしん」と地域広報誌の発行)

5 各都道府県教育委員会における事業成果の活用について

○実践報告会の開催及び中報告書の配布

推進地域の取組を府内に周知し、食に関する理解を深める。

【実践報告】

平成26年1月24日に開催した中学校給食研究協議会において、実践報告を行った。
本会には、府内の市町村教育委員会の関係者や栄養教諭、中学校教諭の80名が参加した。

【中間報告書】

全市町村教育委員会及び府内(政令市を除く)全小中学校に配布した。

6 今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

○9年間を通じた食に関する指導の全体指導計画・年間指導計画を検証する。

○食育授業の推進と充実を図るとともに、評価指標の研究を進め、年間指導計画に位置づける。

○食に関する指導の目標を教職員で共通理解し、指導をすすめる。

○評価したことや成果を、子どもや保護者へ示す方法を検討する。